

三尻中学校では、12/8(月)~19(金)までを『人権旬間』とし、人権について考える取り組みをしています。期間中、全校朝会での人権に関する校長講話【12/9(火)実施】、全校生徒による「人権メッセージ」作成、各クラスで人権について考える道徳授業、給食時の放送での人権作文の朗読などを行います。御家庭でも人権に関する話をする時間をもっていたいただけたらと思います。

【12/9(火)校長講話の概要】

言葉を使うことができる生き物は人間だけです。使う言葉で人を救うこともできるし、悲しませることもなります。どちらの言葉を使うかは本人次第。ぜひ、プラスの言葉を使えるよう心がけて生活してください。

**たった1つのことばが
だれかを幸せにすることも 不幸にすることもできる
一生忘れない宝物にもなり 一生消えない傷にもなる**



水のころろ 高田敏子

水は つかめません
水は すくうのです
指をぴったりつけて
そおっと 大切に――

水は つかめません
水は つつむのです
二つの手の中に
そおっと 大切に――

水のころろも
人のころろも



左の詩には、「つかむ」「すくう」「つつむ」という行為の言葉が出てきます。「つかむ」には、「強引さ・乱暴さ・荒々しさ」などが、「すくう・つつむ」には、「優しさ・温かさ・心遣い・いたわりの気持ち」などが感じられませんか。

ところで、「第三連“水のころろも””人のころろも”の2つの“も”のあとにどんな言葉が省略されていると思いますか」と問いかけられたら、どう答えるでしょうか。きっと「そおっと大切に――」という言葉を入れると考える人が多いのではないのでしょうか。作者は「水のころろ」をたとえにして「人のころろ」について表現しているのだと思います。「水のころろ」と同様に、「人のころろ」も「そおっと大切にしましょう」と伝えたかったのではないのでしょうか。

水をつかむ・すくう・つつむ」の事例を挙げて、それをたとえにして人間の他者に対する対し方・接し方、つまり「人間のころろ」のあり方を伝える詩なのだと思います。人権旬間、「心をそおっと大切にする」について考え、それを意識した言動を心がけてみてください。

[道徳だより 11月号 PART 1 & 2 に対して保護者からいただいた感想…]

- 「軽はずみな判断・行動」。私自身も過去に幾度となく失敗を犯していますし、誰もが経験していることでしょう。生徒や生鮮自身の事例（失敗談等）発表の機会を作ることも良い動機付けになるのではと感じました。また、私自身、学生や子どもに対して、相手の視点に立った教育指導ができるよう、努力精進する所存です。
- 学習も、部活も、本当に小さなことの積み重ね。あたりまえのことをきちんとこなすことが大切ですね。部活の送迎の時に見ていても、強い学校は礼儀正しく、道具もきちんと整理整頓して置いてあります。
- 「我喜屋優監督から学ぶ」。この話のキーワードは、「生活態度をきちんとさせること」。これに尽きると思います。これを受け、学校や地区（家庭）ではどうだろうかという観点で、3点述べます。

① 学校で先生が生徒に実践させているか。

三尻中は、生活指導がきちんとできていないと見られる生徒が目につきます（授業中のサボり等）。全体指導（校則等）を厳しくするという方策もありますが、真に指導が必要な生徒を個別に根気よく指導することこそが重要であり、昨今の課題であると感じます。

② 家庭で父兄が子供に実践させているか。

私自身これを顧みて、父兄として反省する点が多々あるところです。学校と同様、父兄が子供に対して教育して(手をかけて)いるか。道徳教育の根本はここにあると思います。先般8月に行われました地区懇談会に参加しましたが、父兄はほとんど参加されない現状にも、根本的な問題が見えます。懇談会の回数の増加や、父兄への根気良い呼びかけも必要かと考えます。

③ 我々自身は実践できているか。

我々(教職員や父兄)自身が生活態度がきちんとできているか、顧みることです。私を含め、反省するべきところは多々あると思います。

これからのことを常日頃実践できてこそ、道徳教育は生きてくるものと考えます。道徳授業だけの形式的な教育では、恐らく聞き流しになるのでしょう。まずは我々自身が上記3点を常日頃顧みることからだと思います。

理想論であり、なかなか一筋縄ではいかないことですが、改善に向けて小さな事から努力を継続することが重要であると感じました。



※ 貴重なご意見、ご感想をありがとうございました。今後とも、多くの意見、感想をいただければと思います。ご協力を宜しくお願い致します。

【1月の授業予定…】

●第1学年

資料名	ねらい
シカト	・正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
二度と通らない旅人	・人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きる喜びを見いだすように努める。
傘の下	・法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ、義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。

●第2学年

資料名	ねらい
張君の笑顔	・誰に対しても公正、公平に接することの大切さについての自覚を深め、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする心を育てる。
父の仕事	・自分のよさを知り、自己理解を深めながら、自分の置かれた状況の中で最善を尽くそうとする態度を養う。
語り継がれる教訓	・かけがえのない自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

●第3学年

資料名	ねらい
一枚のはがき	・礼儀の意義を理解し、相手に対する敬愛の気持ちや人間尊重の精神に基づき、時節に応じた適切な言動ができる態度を養う。
入試の朝	・自己の視野を広め、人生をより豊かにするためにも、自分と異なる考えや立場を尊重しようとする寛容な態度を育てる。
笑顔がかける橋	・世界の平和と人類の幸福に貢献する意欲を育てる。